

GIGAスクール第2期 iPadを快適に使うためのポイントとは？

GIGAスクール構想第2期において、デバイスを快適に活用するためには、適切な管理と運用体制の整備が不可欠です。

具体的には、MDMを活用した一元管理により、端末の設定やアプリ配布を効率化し、

安全なインターネット環境の構築によって、児童生徒が安心して学習に取り組める環境を整えることが求められます。

さらに、MDMの最新機能への即時対応やデバイスの自動OS更新に加えて、先生や生徒向け支援の充実が、円滑な活用に不可欠です。

GIGAスクール構想に必要なiPadの管理・セキュリティ対策がすべて揃っています

基本パッケージ「Jamf Pro」



MDM

デバイス管理

Appleデバイスの一元管理が可能です。



Return To Service

再設定の自動化

初期化および再登録を完全に自動化できます。



Self Service

アプリカタログ

学校専用のアプリカタログを構築できます。



Jamf App

学習支援アプリ

先生や保護者が児童生徒の端末を管理できます。



応用パッケージ「Jamf Safe Internet」



Webフィルタリング

安全対策

危険なWebコンテンツから児童生徒を守ります。



利活用状況の可視化

わかりやすいレポート機能

稼働状況、利活用状況の可視化が可能です。

教育現場におけるMDMのスタンダードとして、 JamfはすでにGIGAスクールを含む、多くの学校で導入されています。

Jamfは、文部科学省が求めるスペック基準に準拠しています

MDM デバイス管理

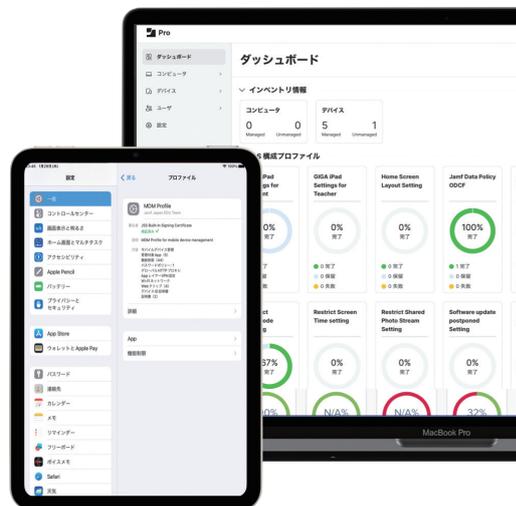


Apple専用のMDMソリューションとして、世界7万6,500上の組織で導入され、3,320万台以上のデバイスを管理しています*。多くの教育機関が求める“シンプルかつ効率的な端末管理”を実現し、児童生徒の生産性と創造性を最大限に引き出しながら、管理者の負担を軽減します。

*2024年12月現在

主な特徴

- 毎日のデバイスチェックインで、端末の稼働状況を即時モニタリング
- Apple管理フレームワークに完全準拠
- 端末の導入から運用に関わる業務を効率化し、管理の負担を軽減
- OS同日サポートを12年連続で実施
- 条件に基づきリアルタイムで自動更新されるグループ管理機能(スマートグループ)



Webフィルタリング 安全対策



教育現場に最適化されたWebフィルタリング機能を提供し、児童生徒が不適切なサイトにアクセスするのを防ぎます。校内ネットワークだけでなく、持ち帰り学習時でも適用されるため、学校外での端末利用時でも安心です。児童生徒の個人情報を守りながら、安全で自由な学習環境を実現します。

主な特徴

- Appleの最新テクノロジー ODCF (On-Device Content Filter) にいち早く対応
- 時間帯に応じた柔軟なWebフィルタリング設定
- カテゴリと独自のURLを指定して柔軟な管理

Jamf Safe Internetのその他の特徴

- OSバージョンアップに迅速対応**
 Appleから毎年リリースされるOSのアップデートによって実装される機能や仕様の変更に対応します。
- ゼロタッチで簡単に展開**
 Jamf ProなどのMDMと連携することで、サイレントインストールにて展開可能です。端末側から手動でアクティベートする必要はありません。
- MDMとの優れた連携**
 Jamf Pro/Schoolのスマートグループ機能を利用してグループごとのフィルタリングを柔軟に適用・変更でき、運用工数を削減できます。

Return To Service 再設定の自動化



GIGAスクール構想では、多くの学校が端末の更新・再設定を効率化する方法を求めています。Appleの最新機能『Return To Service』なら、iPadの初期化と再登録を完全に自動化し、年度末の端末更新作業を短時間で完了。管理者の負担を大幅に軽減し、教育現場のスムーズな運用を支えます。

デバイスのデータはすべて消去され、自動的にデバイスのホーム画面に進みます

Wi-Fi パスワードの公開は不要です



主な機能

- 煩雑なWiFiネットワークの設定と、その他全ての選択を省略
- アプリケーションのインストールと構成プロファイルによる制御がゼロタッチで可能

Self Service アプリカタログ



Self Serviceを活用すれば、学校専用のアプリカタログを構築し、必要なアプリや教材を効率的に配信できます。デバイス管理者は、アプリやPDF教材などをカタログに掲載し、児童生徒は選択形式で簡単にインストール可能。IT管理者の負担を軽減しながら、授業や学習の質を向上させます。

2つのアプリ配布方法

授業で必須の学習アプリは、管理者が強制的にインストールする『強制配信』で確実に導入。一方、補助教材や個別学習向けアプリは『カタログ配信』を利用して、児童生徒が自由に選択してインストール可能。この仕組みにより、管理者の負担を軽減しながら、端末の空き容量を確保し、ネットワーク負荷の最適化も実現できます。



児童生徒はワンタップで必要なアプリ等を手に入れます

Jamf Parents 持ち帰り支援



Jamf Parentsを利用すると、保護者はお手持ちのデバイスから児童生徒のiPadを管理できます。Webやアプリを制限して持ち帰り学習に集中できる環境を整えます。

主な機能

- 利用可能App制限
- 閲覧可能Webサイト制限

Jamf Teacher 授業支援



Jamf Teacherを活用すれば、先生は授業中に児童生徒のiPadに対して、アプリの使用制限や特定のWebサイトへの誘導が可能になり、よりスムーズなデジタル授業を実現できます。

主な機能

- 授業中やテストで接続するWebサイトを制限
- 授業中に利用できるAppを制限

利活用状況の可視化 わかりやすいレポート機能



文部科学省では、プライバシー保護に十分留意した上で、端末の稼働状況を統計的に把握することを推奨しています(端末の利活用状況の調査)。さらに、端末の稼働状況の把握にとどまらず、学習データの分析機能を活用することで、より高度な教育の質向上が期待されています。

レポート機能について

Jamf Safe Internetは、直感的でグラフィカルなレポートを提供。接続先ドメインごとに端末の稼働状況・利活用状況(トランザクション数・端末数)を把握可能です。管理者は、児童生徒のプライバシーを守りながら、学習の質を向上させるデータ活用と、安全なインターネット環境の確立を両立できます。

